

2012年地質の日普及行事 in・BETSUKAI ならびに 根室市ガッカラ浜での北海道内の教育機関贈呈用の 巨大津波堆積物剥ぎ取り作成作業に関する報告

在田一則¹⁾・石井正之²⁾・重野聖之³⁾・中川 充⁴⁾・池田保夫⁵⁾・石渡一人⁶⁾・七山 太⁷⁾

2012年11月3～4日に、標記の行事が北海道東部の別海町と根室市ガッカラ浜で行われた。北海道東部での2012年度の地質の日普及行事は、前年度の白糠町で行われた“パシクル沼に潜む巨大津波痕跡と化石カキ礁の秘密”に続くものであり、2012年度は別海町郷土資料館に主催をお願いし、別海町で開催された。

11月3日午前10～12時には、郷土資料館で普及講演会が行われた。講演会には別海町民を主体に26名が参加して、下記の3つの講演が行われた(第1図)。

- ・「根釧台地の生い立ち」在田一則(北海道大学総合博物館)
- ・「別海周辺の大地の恵み—温泉について」中川 充(産業技術総合研究所)
- ・「風蓮湖周辺の海岸地形とそれから読み取れる地殻変動」七山 太(産業技術総合研究所)



第1図 11月3日午前の普及講演会での在田一則の講演風景。

午後には別海町と周辺地域から約23名が参加して根室市ガッカラ浜のジオツアーを行い(第2図)、そこに見られる巨大津波痕跡の観察・解説をするとともに、巨大津波堆積物の剥ぎ取り作成作業を見学していただいた。

ジオツアーに参加された皆さんは、露頭の地層が津波による拳大の礫とともに強力な接着剤で剥ぎ取られることに驚歎し、泥炭堆積物の間に見られる過去の巨大津波堆積物や道東の摩周火山、道南の樽前火山・駒ヶ岳火山や北朝鮮の白頭山から飛んできた火山灰の層に興味津々の様子であった。この地域が遠い過去から何度も津波に襲われたことを実感されたようであった。ジオツアーには地元の釧路新聞や毎日新聞の取材もあり、翌朝のNHK道内版ニュースで放映された。

一方、この行事と並行して、11月3～4日に根室市ガッカラ浜において巨大津波堆積物の剥ぎ取り作業が行われた(第3および4図)。これは在田が筆頭申請者として財団法人日本科学協会、平成24年度笹川科学研究助成(実践



第2図 ガッカラ浜でのジオツアーの風景。

1) 北海道大学総合博物館
2) 北海道地質調査協会
3) 産総研 技術研修員/
茨城大学大学院理工学研究科/明治コンサルタント(株)
4) 産総研 北海道センター
5) 北海道教育大学釧路校
6) 別海町郷土資料館
7) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: 2012年地質の日普及行事, 別海町, 根室市ガッカラ浜, 巨大津波堆積物剥ぎ取り作業, 行事報告



第3図 ガッカラ浜での大型剥ぎ取りの作成風景。



第4図 作成された大型剥ぎ取りの贈呈先を考える在田。



第5図 北海道教育大学の池田研究室でパネル化された大型剥ぎ取り。

研究部門)を受託し、巨大剥ぎ取りを博物館や学校など教育機関に贈呈することにより、展示物として活用していただき、今後の巨大津波への備えや防災・減災教育に役立てることを目的として実施された。

幸い両日は好天に恵まれ、別海町のボランティア、北海道釧路明輝高等学校の佐藤 誠教諭や北海道教育大学釧路校3年生の青山拳司君、藤岡 遼君、小林知幸君(第5図)の献身的な協力を得て、過去約4000年間に生じた13層の巨大津波堆積物を挟む縦約120cmの大型剥ぎ取りを、2日掛かりで12セット採取できた。それらを北海道大学総合博物館、釧路市立博物館、別海町郷土資料館、中標津町郷土資料館等の道内の博物館と北海道教育大学釧路校、北海道教育大学札幌校、北海道理科教育センター他、計8カ所の教育機関に無償で贈呈した。

北海道大学総合博物館においては、2012年度中に残りの研究助成金を用いて今回作成した大型剥ぎ取りをパネル加工し、館内の展示物とすることで現在調整を行っている。

ARITA Kazunori, ISHII Masayuki, SHIGENO Kiyoyuki, NAKAGAWA Mitsuru, IKEDA Yasuo, ISHIWATA Kazuto and NANAYAMA Futoshi (2013) Reports of "The Geology Day event in BETSUKAI 2012" and peeling work of large tsunami deposits at Gakkarahama beach in Nemuro donated to the educational institutions in Hokkaido.

(受付:2013年1月11日)